

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

|           |  |
|-----------|--|
| 機関番号：     | 3 2 6 3 6  |
| 研究種目：     | 基盤研究（B）海外学術調査  |
| 研究期間：     | 2008～2011  |
| 課題番号：     | 2 0 4 0 2 0 1 5  |
| 研究課題名（和文） | 日本の人的資源と中国の再編・再生：戦後中国における日本人留用問題の総合的考察   |
| 研究課題名（英文） | Japan's Human Resources and China's Reconstruction and Rebirth: comprehensive research on Japanese staying in China after WWII |
| 研究代表者     |  |
|           | 鹿 錫俊 (LU XIJUN)  |
|           | 大東文化大学・国際関係学部・教授   |
|           | 研究者番号：20272784   |

## 研究成果の概要（和文）：

「日本の人的資源と中国の再編・再生」を課題にして、4年間にわたって中国の20以上の地域および台湾、米国などで調査を行い、戦後中国における日本人留用問題に関する一次資料を網羅的に収集し、同問題を総合的に解明するための資料的基礎を築いた。その上で、学術誌や論文集等で13件の学術論文を発表し、学会や国際学術会議で研究報告、講演を21回行った。また、NHKなどの番組制作にも協力した。これらの成果は学界で肯定的な評価を受けており、学術賞も受賞した。

## 研究成果の概要（英文）：

In order to complete the Project "Japan's Human Resources and China's Reconstruction and Rebirth", in the past 4 years I have been to over 20 places in mainland China, Taiwan and the United States, collected all the primary documents concerning Japanese staying on in China after WWII, built the material foundation for further overall research on the issue. I have published 13 articles in academic journals and some collections of papers, and delivered reports for 21 times in academic conferences both at home and abroad. Furthermore, I have offered my support to the making of some NHK programs. All the accomplishments were highly appreciated in academic circles, even were awarded an academic prize.

## 交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費      | 合計         |
|--------|-----------|-----------|------------|
| 2008年度 | 2,200,000 | 660,000   | 2,860,000  |
| 2009年度 | 1,900,000 | 570,000   | 2,470,000  |
| 2010年度 | 2,100,000 | 630,000   | 2,730,000  |
| 2011年度 | 1,800,000 | 540,000   | 2,340,000  |
| 年度     |           |           |            |
| 総計     | 8,000,000 | 2,400,000 | 10,400,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：中国 日本 東アジア 日中関係 戦後処理 留用

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日中戦争が終了した後、数万人規模

の日本人は長年中国に残された。そのうち、民間に流散した子供や婦人を主体とする「残

留者」と違って、国民党側と共産党側に別々に徴用され、技師や医師、職員などとして使われた日本人もいる。中国では彼らを「留用者」と呼ぶ。部外者である民間の残留者と異なり、「留用者」は中国当局の要請または命令を受けて、部内者として戦後中国の再編と再生に大きな役割を果たした。

(2) こういう「留用者」問題の究明は重要な意味があるにもかかわらず、長い間、学界の関心は残留者問題に集中しており、「留用者」については、当事者の回想録とマスコミの取材本といった種類のもものがほとんどであり、一次資料に基づく学術的な論考は少なかった。総じて、日本人留用の全般にわたる総合的な調査研究は非常に不十分な状態にある。

(3) 本研究は上記の背景を踏まえて、日中関係史の空白を埋めるとともに、相互協調も含む日中関係の多面性を明らかにし、過去の歴史の奥行に対する全面的な理解を深めることを目指している。

## 2. 研究の目的

(1) 実地調査によって中国大陸における日本人留用の基本的な様相を解明するとともに、ケース・スタディーに基づいて、共産党支配地域と国民党支配地域という性格の異なる両地域における留用の実態とその相違点を具体的に比較しつつ、それぞれの地域における留用問題の特色を明らかにする。

(2) 国民党側と共産党側の一次資料に依拠して、「中国の内部評価から見た日本人留用者」という視角から、闇の存在として扱われた彼らに客観的な評価を与えつつ、戦後中国の再編・再生過程に寄与した日本人留用者の役割とそれに基づく中国人の日本観、日本

人観を浮き彫りにし、日中関係の多面性を提示する。

(3) 「日本の人的資源の働き」という新しい視角から東アジアにおける戦後処理問題を再検討し、中国の再編との関連を明らかにする。そして、日本人留用の経験と日本人留用者との人脈は戦後の日中関係にどのような影響を与えたのかという問題を考察する。

## 3. 研究の方法

(1) 日本人留用者が活動した中国の各地域におけるフィールド調査と資料収集を基本としつつ、関係者の居住地や資料の所蔵先の変遷に沿って、台湾やアメリカなど、中国大陸以外の地域においても調査と資料収集を行う。

(2) テーマはナショナリズムが絡むものであるため、中国では誤解されやすく、敬遠または警戒される傾向もある。この点を自覚し、研究の学術的な意義を丁寧に語るとともに、学問的な姿勢をしっかりと貫く。また、内容は関係者のプライバシーに関わる側面があるので、それを厳密に守ることに最大の注意を払い、当事国の法律と国際的通念を厳粛に順守する。

(3) 留用者に関する地域別資料と分野別資料に量的、質的な隔たりが大きい。また、今日の中国の国情により、資料の公開度と調査に対する許容度も地域によって相違がある。そのため、資料が比較的充実している分野または許容度と開放度の高い地域ではミクロ・ヒストリーの方法で緻密に考察し、そうでない分野と地域ではマクロ・ヒストリーの方法で俯瞰する。そして、二者の相互補完を図る。

(4)「海外学術調査」という項目にあてられた科研費の主な目的は「フィールド調査、観測又は資料収集を行う」ことにある。また、デリケートな問題に絡む論文の早期公表は進行中の実地調査の支障になる恐れがある。この二点を十分に配慮し、限られた時間と経費をまず調査と資料収集に集中する。調査継続期間の論文作成は前記の優先順序を確保したうえで努力し、論題の選定と公表の順番も進行中の調査を妨げないことを前提とする。

#### 4. 研究成果

(1) 4年間にわたって、中国の下記のところで実地調査と資料収集を行った。①江蘇省：江蘇省档案馆、南京市档案馆、無錫市档案馆、鎮江市档案馆、徐州市档案馆。②山東省：山東省档案馆、煙台市档案馆、芝罘区档案馆、威海市档案馆、淄博市档案馆、青島市档案馆。③浙江省档案馆。④天津市档案馆。⑤上海市档案馆。⑥北京市：国家図書館、外交部外交档案馆、中国近代史研究所。⑦広東省：広東省档案馆、広州市档案馆、広東省立中山図書館。⑧重慶市：重慶市档案馆、重慶市図書館。⑨山西省：山西省档案馆、太原市档案馆。⑩遼寧省：大連市档案馆、大連市図書館、遼寧省档案馆、遼寧省図書館。⑪雲南省：雲南省档案馆、昆明市档案馆。⑫海南省档案馆。⑬貴州省：貴州省档案馆、貴州省図書館、和平村（国民党支配地域の日本軍捕虜収容所）、鎮遠県档案馆。⑭陝西省：延安中国革命記念館、日本労農学校遺跡等。⑮甘粛省：甘粛省档案馆、甘粛省図書館、天水市档案馆。⑯香港：中文大学現代中国資料センター。⑰台湾：国史館、中央研究院近代史研究所。その上で、米国においては、スタンフォード大学、コロンビア大学、米国国会図書館等、日本では防衛研究所図書館、東洋文庫等で調査を行った。

(2) 上記の各調査により、中国共産党側、国民党側と第三者側を含む数多くの一次資料を獲得し、日本人留用に関する次の諸問題を究明するための基礎を築いた。①日本人収容所と日本人捕虜収容所の運営。②国民党支配地域における日本人の留用基準と待遇。③山東省共産党支配地域における留用者の日常生活と子女教育問題、留用者の帰国要求への対応。④終戦初期における国民政府の日本人送還政策の背景。⑤1949年、蒋介石による「日本人運用」案の決定と台湾への日本人顧問招聘過程。⑥日本軍の山西「残留」と蒋介石の対応。⑦中国共産党による太原接收。⑧終戦時大連、瀋陽の日本人社会。⑨中国共産党東北根拠地の日本人政策。⑩中国共産党の軍需工業における日本人の貢献。⑪青島市の日本人徴用と日本人収容所の運営。⑫海南島における日本人の留用と戦犯の裁判。⑬国共両党の日本人捕虜処遇方針の異同と戦後の留用への影響。⑭新中国のインフラ建設における日本人の役割と現在の評価。

(3) 実地調査と資料収集を優先的に実行したうえで、成果発信の面でもこれまで次のような実績を得た。①学術論文の発表（計13件、うち査読有11件。なお、査読中の論文も2件あったが、採否の結果がまだであるので、現在の業績に加算されていない）。②国内外の学会、国際シンポジウムなどでの研究発表（計21件、うち基調報告2件、招待講演3件）。③NHKなど報道機関による取材と学術番組制作への協力と出演（計3件）。④大学、大学院の教育における研究内容の活用と市民向け公開講座の実施。⑤東日本大震災のため日本での国際シンポジウム開催の計画が頓挫したが、ワークショップを2回開催した。⑥各調査地で研究機構を訪問し、学者および一般市民と交流し、研究成果を紹介した。

(4) 上記の成果は質・量ともに肯定的な反響を受けた。中国の学界では「蒋介石と戦後の国共相克における日本人」、「戦後中共東北支配区における日本人材の吸収と運用」等の論文を「最新の資料に立脚した優秀な成果」として評価している。また、日本の学界からは「太田記念中国研究学術賞」を授与された。日中関係史の研究では負の面に対する偏重が特徴であるが、本研究による成果はこのような偏りを克服し、光りの面を含む日中関係の全般への理解を深めつつ、歴史認識問題をめぐる対立の解消に寄与していると思われる。

(5) 今後は次の3点を中心に更なる前進を図りたい。①入手した資料の完全な整理と消化を行う。②これまで中国での実地調査への支障を避けるために公表を遠慮した、いわゆる敏感なテーマについての原稿を作成・修正し、学術論文として刊行するとともに、著書に仕上げる。③社会への還元を引き続き尽力し、波及効果を高めていく。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計13件)

- ①鹿錫俊、蒋介石与戦後国共相争中的日本人角色、〔中国〕「民国人物的再研究与再評価」国際学術討論会論文集、査読有、掲載決定。
- ②鹿錫俊、戦後中共東北解放区对日本人材的吸収与運用、〔中国〕中国現代史学会2011年会論文集、査読有、掲載決定。
- ③戸部良一、鹿錫俊、冨塚一彦(共著)『『日本外交文書』論評：『日本外交文書 日中戦争』所収文書から見る和平工作の諸相』、〔日本〕『外交史料館報』、査読無、第25号、2012年、46-77。
- ④鹿錫俊、1949年蔣中正「運用日本」政策的の籌劃與實施、〔台湾〕呂芳上編『蔣中正日記與民国史研究』、査読有、2011、371-388。
- ⑤鹿錫俊、「蒋介石对蘇德互不侵犯条約的反應」、〔中国〕『近代史研究』、査読有、第183期、2011、90-103。

⑥鹿錫俊、日独伊三国同盟をめぐる蒋介石の多角外交——中国指導者の内面から見た太平洋戦争への転換点、〔日本〕『年報 日本現代史』、編集部依頼論文、査読有、16巻、2011、39-93。

⑦鹿錫俊、ヨーロッパ戦争開戦前後の蒋介石——日記から読み解く中国当局者のシナリオ、〔日本〕『中国研究月報』、査読有、65巻、2011、1-18。

⑧鹿錫俊、蒋介石对1940年夏季國際危機的因應、〔台湾〕『国史館館刊』、査読有、29期、2011、55-81。

⑨鹿錫俊、蒋介石与1935年中日蘇關係的転折、『近代史研究』 査読有、総第171期、2009、4-27。

⑩鹿錫俊、Response to the Situations in Europe and Treatment of Relations with Japan, Germany and Russia: China's strategies in and around 1940 into the Pacific War 『戦争史研究国際フォーラム報告書』、査読無、2009、83-104。

⑪鹿錫俊、「中国問題与日本1941年の開戦決策——以日方档案為依拠的再確認」、〔中国〕『近代史研究』、査読有、総第165期、2008、90-103。

⑫鹿錫俊 “Changes in Japanese Strategy in 1939~1940 and the Internationalization of the Sino-Japanese War” *Journal of Modern Chinese History* 査読有、Vol. 2, No. 1 2008、21-40。

⑬鹿錫俊、「国民政府对欧戦与結盟問題的應對」、〔中国〕『歴史研究』、査読有、2008、94-116。

### 〔学会発表〕(計21件)

①鹿錫俊、日本の人的資源と戦後中国の再編：フーバー研究所所蔵「蒋介石日記」の記述を手掛かりに(招待講演)、2012年3月10日、於京都大学。

②鹿錫俊、戦後中共東北解放区对日本人材的吸収与運用(基調報告)、边疆与現代中国社会学術討論会暨中国現代史学会年会、2011年11月5日、於中国・雲南大学。

③鹿錫俊、蒋介石在处理日本戦俘問題上的轉折(招待講演)、雲南大学歴史学院学術講演会、2011年11月3日、於中国・雲南大学。

④鹿錫俊、蒋介石与戦後国共相争中的日本人角色、復旦大学・スタンフォード大学フーバー研究所共催「民国人物的再研究与再評価」国際学術討論会、2011年9月11日、於中国・復旦大学。

⑤鹿錫俊、日德意三国同盟成立前後蒋介石の形勢判断及初期対策、蒋介石與現代中國再評價國際シンポジウム、2011年6月29日、於台湾・中

央研究院.

⑥鹿錫俊、關於中共東北解放区留用日本人の幾個問題、〔台湾〕總統府国史館招待講演、2011年3月30日、於台北・国史館.

⑦鹿錫俊、1949年蔣介石“運用日本”政策的籌劃與實施、「蔣中正日記と民国史研究」国際シンポジウム、2010年12月2日、於台北・圓山飯店.

⑧鹿錫俊、蔣介石日記から見る旧日本軍人への処遇問題、日本国際政治学会 2010 年度研究大会、2010年10月29日、於札幌コンベンションセンター.

⑨鹿錫俊、独ソ不可侵条約をめぐる蔣介石の対応——当事者の日記を手がかりに、現代中国学会 2010 年度研究大会、2010年10月17日、於東京・中央大学.

⑩鹿錫俊、蔣介石対日徳意三国同盟の因応——上篇：時代背景与上策の出台過程、蔣介石研究第2年度国際学術會議、2010年9月5日、於北京・近代史研究所.

⑪鹿錫俊、欧戦爆発前後蔣介石的戰略調整、「蔣介石と世界」国際シンポジウム、2010年8月25日、於台北・中国文化大学.

⑫鹿錫俊、1940年の国際危機与蔣介石的抉擇（基調報告）、「近代中外關係史」国際シンポジウム、2010年8月12日、於広州・中山大学.

⑬鹿錫俊、蔣介石の国際觀察与危機処理、「近代中国と世界」国際シンポジウム、2010年5月23日、於北京・香山飯店.

⑭鹿錫俊、蔣介石と中国のドイツ政策——重慶時代を中心に、東方学会、2010年5月21日、於東京・教育会館.

⑮鹿錫俊、蔣介石对蘇德互不侵犯条約的反應、「蔣介石と近代中国」国際シンポジウム、2010年4月10日、於杭州・浙江大学.

⑯鹿錫俊、戦後国共両党による日本人の留用と「白囚」から見る蔣介石の対日政策、Stanford ChinaRains、2010年2月24日、Stanford University (USA).

⑰鹿錫俊、中国国民政府による日本人技術者留用の政策過程、China's challenges before and after the War of Resistance to Japan (Symposium)、2009年11月30日、Queen's University, Department of History (Canada).

⑱鹿錫俊、「国民政府对欧戦与結盟問題的対応」、上海交通大学主催「20世紀中国的戦争与革命」国際シンポジウム、2008年11月9日、於上海交通大学.

⑲鹿錫俊、蔣介石与1935年中日蘇關係的轉折、Hoover Institution, Stanford University 中国社会科学院近代史研究所共催「民国人物与民国政治」国際シンポジウム、2008年11月2日、於中国社会科学院近代史研究所.

⑳鹿錫俊、「中国国民政府の対日戦略」、防衛省防衛研究所主催「戦争史研究国際

フォーラム」、2008年9月18日、於防衛研究所.

㉑鹿錫俊、「世代間の比較から見る現代中国の家」、中国山東大学・韓国成均館大学・日本大東文化大学合同シンポジウム「東アジアにおける家」、2008年9月17日、於大東文化大学.

#### 〔図書〕(計1件)

①斎藤道彦、土田哲夫、鹿錫俊、深町英夫ほか(共著)『日中關係史の諸問題』、中央大学出版会、2009、250(223-246)。

#### 〔その他〕

①鹿錫俊、『20世紀満洲歴史事典』のために「留用者」という項目を執筆(吉川弘文館より出版予定)、2011年10月.

②鹿錫俊、岡山放送の取材を受けつつ、2011年5月26日放送の「鬼子医師——日中友好に生きた65年」番組の制作に協力。2011年1-5月.

③鹿錫俊、NHKの取材を受けつつ、2011年1月9日放送の「NHKスペシャル 日本人はなぜ戦争へと向かったのか」の制作に協力と出演。2010年10月-2011年1月.

④鹿錫俊、市民を対象とする公開講座：戦後中国における日本人技術者の「留用」問題、2010年10月16日、於大東文化大学.

⑤鹿錫俊、NHKの取材を受けつつ、2008年12月8日放送の「引き揚げはこうして実現した——旧満州・葫蘆島への道」の制作に協力。2008年7-12月.

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者 鹿 錫俊 (LU XIJUN)  
大東文化大学・国際關係学部・教授  
研究者番号：20272784

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：